

困り感

文字を正確に読むことが  
苦手である。

集中力が長く続かない。



取り組みの内容・授業の様子等

☆児童が自分でiPadを操作をしながら、とんだり、はねたりする文字が流れるスライドショーを読み取る。  
☆スライドやタップ等の基本的な操作を場面に合わせて使い分ける。

- 使用アプリ : 『Keynote』
- 準備物 : iPad 1台
- 事前準備 : keynoteを用いて作成したスライドショー
- 活用方法 : iPadを使用してKeynoteのスライドショーの設定に答える。

→様々な文字の動きに対応できる目の動きを楽しみながらすることができる。

◎実際の活用例  
対象学年 小学部4年生 教科 自立活動  
活用後の感想 クイズ形式になっているので楽しんで学習することができた。

成果と今後の課題

指導者が文字の大きさやスライドの流れる速さやタイミングを調整できるので、児童に合わせた適切な教材が作ることができる。  
スライドショーを作成するのに時間がかかるので、スムーズに操作できるように、ソフトウェアの研究を進める必要がある。  
児童がiPadの操作に慣れ、直観的に操作できるようになった。

